

中和地区3市1町障害者自立支援協議会 議事録

令和4年度 第4回こども部会

開催日時 令和4年12月16日(金) 10:00～

開催場所 葛城市福祉総合ステーション2階会議室

【配布資料】

- ①次第 ②勉強会資料 ③勉強会アンケート ④第3回こども部会議事録

【出席者】 ※こども部会名簿順(敬称略)

香芝市社協2名、葛城市社協1名、もちつもたれつ1名、愛の集い学園1名、葛城育成会1名、葛城市こども・若者サポートセンター3名、大淀養護学校1名、西和養護学校1名、大和高田市1名、香芝市2名、広陵町1名、葛城市2名

勉強会『不登校児等について』

講師：葛城市こども・若者サポートセンター 江口 広さん

・葛城市こども・若者サポートセンターの紹介

福祉部局や教育委員会など、複数の課に分かれていた機能を一元化し、妊娠期から概ね40歳を対象に切れ目のない支援を行うことができるセンターとして平成28年に開設した。

・センターの事業

①子ども家庭支援事業…虐待対応事業、虐待予防事業

②子ども若者支援事業…子育て相談、教育相談、若者相談

⇒園や学校に月2～3回巡回訪問することにより、園・学校とのつながり強化

・葛城市子ども・若者支援地域協議会

①学校不適合部会…巡回相談(保育所・幼稚園・小中学校)、適応指導教室、教育・福祉連携

②若者支援部会…義務教育終了後から40歳までのポスト青年期の不登校・ニート・ひきこもり

③障がい支援部会…乳幼児からポスト青年期までの障がい児・障がい者

・令和4年度新規事業

AIを活用した相談システムの構築～^{れんか}蓮花のAI相談室～ (^{れんか}蓮花ちゃん…市マスコットキャラクター)

◆GIGAスクール構想による1人1台端末環境を活用し、SNS相談とAI相談を構築

◆AIによる日記の解析等により、悩みや不安を相談できないこどもや、自身でもそれらを認識できていない状況(リスク)の早期発見が可能

◆AIの活用は人と繋がりやすくするための手段であり、相談後や早期発見後の対応が最も重要

⇒幼い頃から自分の気持ちを伝える練習をしておくことにより、大人になってからもSOSが出しやすくなる。

- ・とまりぎ（不登校傾向の子どもの保護者グループ）紹介
 - ◇全国の不登校児は年々増加しており、不登校の理由も多岐にわたる。
 - ◇不登校児が社会へ復帰することを目指す。
 - ◇保護者の安定、家庭の安定を図る。家庭を第一の居場所とすることを目的とする。

- ・奈良若者自立支援 本人の会・親の会〈南部の会〉紹介
 - ◇ひきこもり、ニート、就労困難に悩む若者たちと保護者の会

- ・部会員より情報提供
 - ◇新聞記事紹介『不登校の子を持つ保護者の65%が「原因は自分（親）」』

【勉強会アンケートより一部抜粋】

①勉強会で心に残ったキーワードは？

「AI相談」「家庭での居場所づくり」「つながり続けること」「自分でSOSを出せる力」
 「不登校児を社会につなげる」「縦割行政への挑戦」「バトンタッチではなくつながり続ける」等

②勉強会の感想、「なるほど!」と思ったことは？

- ・一人ひとり違う人間なので、目指すゴールがみな同じ「就労」でなくても良いのではないかという話に共感した。
- ・就労・登校をゴールと考えてしまいがちだが、就労・登校だけを目的としない生き方を共に考えてくれる人が身近にいてくれることはとても心強いことだと思う。
- ・子どもの頃から誰かに思いを伝える習慣づけをすることで、その先で困ったことがあった時に相談できる力をつけている取組は良いと思う。
- ・こども・若者サポートセンター設立の原点が、ひとりのスタッフ（福祉）と学校が、同じ危機感や問題意識を共有し、PTA（市民）と協働したことだったということは、示唆に富むエピソードだった。

○ 第5回こども部会

令和5年2月17日（金） 10:00～ 葛城市福祉総合ステーション2階会議室